

## 協同運営委員会第4回総会

日時 2014年8月27日(水)午後5時30分より  
(今回から時間を30分繰り上げます)

場所 岡本事務所

- 議題 I 各部会からの報告  
II ポリシーの作成について  
III その他

### 協同運営委員会第3回総会議事録より

2014年7月16日午後6時から7時20分 岡本事務所にて

#### 議題Iについて

6月28日に行われた。正会員出席者24名(うち委任状、9名)オブザーバー6名で無事終了した。NPO総会の議案書を持っていない人への配布をする。今回の総会は記念講演があり、また若い人が大勢参加できて画期的だった。

#### 議題IIについて

- ・就A部会は目的達成したので、課題をコモンズ部会とうた・かめ部会に分ける形で解消したい。うた・かめ部会は第一木曜日に開きたい。——>了解された。
- ・コモンズ部会は議事録を読み上げる。①と②については承認してほしい。——>承認された。コモンズ部会は月二回くらい、水曜日17時よりコモンズで行う。
- ・コモンズ・ハート部会は水曜日午前11時から、2~3週間に一度の頻度。添付文書は読んでおいてほしい。人手が足りなくなっている。対応策を考えたい。
- ・TAGは部会をつくらない。個人の資格で協同運営委員会に参加し、TAGは従来通りイベント中心にやっていきたい。

#### 議題IIIについて

- ・コモンズで何をしたいのか、スローワーク協会で働くことの意味は、といったことについて議論したいのでこの文書を作成してみた。
- ・食べものづくりについて、職人的な考え方でやっている。スキルを上げていくことが目的で、そうすると客に喜んでもらえる。
- ・コモンズの売りは景色。駅前徒歩5分も売り。
- ・長居歓迎がよい。
- ・石窯だけでいいのか。オーガニックはどうするのか。
- ・コモンズは地産地消がいい。野菜が多く薄味が評価されている。

#### 次回会議

8月27日午後5時半から 岡本事務所にて

#### 資料

1. コモンズ部会議事録
2. リサイクルショップ開店へ向けて
3. ポリシー作成用具

## 1. 7月2日9日 コモンズ部会議事録と議題

### ① 移動式の石窯について

約3万円～20万円で販売されている。費用を回収するとしたらコモンズとしては5万円まで出してよいか。スローワークの関係者に材料費人件費込み5万円で製作を依頼するという方法もある（募集！）。

### ② うたたねやとの連携

野菜の調理品をコモンズから提案して持っていき、うたたねやを楽にして食数を増やしていければよい。

### ③ コモンズ部会の開催時間

夕方ではしんどい。インセンティブがほしいが手当てという形では他の部会でもしていない。無理なく継続できるように、勤務の時間内で開催するようにする。

### ④ 中期目標を達成するにはステップアップしていく仕掛けをつくる必要。我々は事業経験が少ないのでうまく助成金などを使いたい。9月募集、翌年4月開始、が多くそろそろ検討すべき。もし助成金を得られるとしたら、何をすべきと思うか？（ブレインストーミング）

→すでに話が起きている移動石窯や宅配展開についての拡充をできたら。行商車のひき売り、楽に宅配するための電動自転車、新たな調理を可能にする加圧殺菌機、コモンズハートのリサイクルショップに石窯料理の店、宅配の機能をプラスしたサテライトショップの設立、などの案。

## 2. リサイクルショップ開店へ向けて

コモンズハート部会 2014年7月16日 記

- ・これまでの半年間のコモンズハートの実践を踏まえ、次に必要な活動の場として、現ドミトリーの駐車場スペースをリサイクルショップの店舗兼倉庫として利用できないか、ということを検討してきた。
- ・前提としては、現在のトラックを別の駐車場を借りてそこに移す必要がある。その為の費用としては月2万円、年間24万円あれば足りる。そのメドがこの半年間の活動で見通しがついたと言える。
- ・第1段階としては、別に駐車場を借りて、倉庫としてフル回転することから始め、不用品の分別作業、転売準備作業などをコモンズハートの日常作業として行く。それに見合うコストを考えていく（作業を請負で考え、その都度報酬を支払うのはどうか）。
- ・第2段階としては、デスクとパソコンを置き、常駐者（電話を持つ人でもある）を1日6～8時間居るようにする。内装、照明、店舗にするための環境を整えていく。常駐者には時給で報酬を計算する。
- ・第3段階としては、開店日を決め、チラシの作成、オープニングセレモニーを計画し、ルーティン作業と業務分担を決めていく。

- コモンズハート部会での討議・決定を待って、上記の作業に取り掛かる。  
早ければ、10月頃に開店できればいいのだが。
- なぜ、コモンズハート事業を福祉事業の枠外として展開しようとしているのか、について、再度確認しておく。
- 日本の福祉制度のもつ基本的欠陥として、障害者なら障害者としての「資格」「認定」をまず設定し、それに適合した人にもみサービスを受ける資格を与える、との枠組みである。この枠は最近の「生活困窮者自立支援法」にも貫かれているわけで、その現場では、あくまでも支援・援助を受ける人と支援・援助する人との2種類に区別される。どこの福祉事業所でもスタッフとメンバーという「階級制」が存在する。「引きこもり」に典型的なように、どこにもあてはまらないという分野は「制度のすきま」として日が当たらず、置き去りになっていく。
- スローワーク協会の理念は上記の考え方を変えていこうというものであり、実践的には、障碍の有無、社会的なこれまでの評価に囚われるのではなく、協同組合的に、共に働くことをあくまでも追求していくことになる。
- コモンズハートの実践は、上記の「福祉制度の枠」外であることによって、極めて自由な実践が可能になった。近接領域である介護保険のヘルパーの守備範囲は介護保険の財政がひっ迫してくるにつれ、狭まっている。個々の事業所の努力にも限界があり、この傾向は今後も続いていくだろう。したがって、コモンズハートの存在意義、その出番、必要性は高まっていく、つまりは事業性がある。
- コモンズハートが、引っ越しと不用品処理がその仕事の中心になっているのは、ある意味、必然であった。現在の福祉の枠組み外の仕事、分野が増えていく、ということなのだ。

(未完)